

第3回『琵琶湖スマートコミュニティ事業化検討委員会』

開催日 : 2014年3月3日(月)

開催時間 : 14:00 ~ 16:00 開催場所 : コラボしが21 (3F 中会議室)



昨年の10月から開催されてきた「琵琶湖スマートコミュニティ事業化検討委員会」もいよいよ第3回を迎え、経済産業省への報告書案について議論がされました。

まずは報告書案の構成についての説明があり、

1. 調査の概要
2. エネルギー管理事業の計画策定に係る調査
3. エネルギー需給や管理を担う個別事業の検討・具体化
4. スマートコミュニティの実現に向けた取組

など今回の事業化委員会の目的や概要に沿って議論された内容を4つの項目で報告されるということです。



このプラン別での収支はモデルケースであり、事業化の可能性のあくまで目安。
エネルギー需給は企業業種により大きく変わるものなので、事業化の採算性重視の内容ではなく、
◇事業化計画については必要性を考慮しての取捨
◇モデルタウンとしての効果的な節電・省エネ対策
◇先端ネットワークの情報網の利活用と追求
◇エリアマネジメント(防犯、見守り、買物支援など)のサービス充実と向上 など

今まで2回の委員会で議論が繰り返されてきた、「琵琶湖スマート commons」に住まう人と集う企業のエネルギーデマンドレスポンスに関する具体案、スマートハウス(タウン)の価値を見いだせるインテリジェンスを明確化し、先駆的な事業として注目を集めることで、現状の厳しい規制をも変えていけるような事業報告書としてほしい。と、そんな各委員およびオブザーバーの熱い想いが最後の最後まで活発な議論に現れていました。



再生エネルギー有効利用の住民アンケート調査についての最終報告。

さらには、地域エネルギー供給事業や急速充電サービス事業、地域情報サービス事業について、工業団地に想定する企業の業種におけるシナリオ別のエネルギー需要量の試算や電力供給形態の比較。また、「琵琶湖スマート commons」の地域エネルギー供給事業プラン別の収支の算出、急速充電サービス事業、地域情報サービス事業に対する収支の算出などが報告されました。



委員である弊社芦田からも「地域主導による災害に強い街づくり」「産・官・学・地域の連携」「売り手よし・買い手よし・地域よし」となるようなスマートコミュニティに行きたいと呼び掛けさせて頂きました。そして最後に、事務局から今回の可能性調査事業の継続として、次年度早々の申請を予定している次世代エネルギー技術実証事業についての概要報告の発表がありました。

さあ、これをもとに事務局から報告書が提出されますが、さらなる展開に期待がふくらみます。

以上「琵琶湖スマートコミュニティ事業化検討委員会」の参加レポートでした。尚、「成果報告書(概要版)」が3月末頃には執行団体より公表されますので、その折には弊社(株)拓伸ホームページでもお知らせさせていただきます。

琵琶湖スマートコミュニティ事業化検討委員会 名簿

【委員】
委員長 / 横山隆一(早稲田大学理工学術院教授)
滋賀県地域エネルギー振興室、(株)NTT ファシリティーズ、西日本電信電話(株)滋賀支店、トヨタ自動車(株)、三菱自動車工業(株)、日産自動車(株)、大和ハウス工業(株)、(株)拓伸

【オブザーバー】
近畿経済産業局、大阪ガス(株)、大津市企業局、(株)澤村、(株)桑原組、正和設計(株)、滋賀三菱自動車販売(株)、地元関連団体関津自治会

【監修】
スマートコミュニティプロジェクト研究会

【事務局】
パシフィックコンサルタンツ(株)、日本電気(株)

※順不同

委員会ご参加の皆様、お疲れさまでした。